

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600048		
法人名	有限会社 あすとぴあ		
事業所名	グループホーム 望喜家 ひまわり		
所在地	臼杵市大字江無田1100番地		
自己評価作成日	平成25年4月10日	評価結果市町村受理日	平成25年7月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年4月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「利用者本位」のできる施設ケアを目指していること。 おやつ時の飲み物が選択できること、食事の時間の柔軟な対応、喜びのある時間の提供など 利用者様が「ここで生活して良かった」と、心から喜んでもらえるようなケアを目指していること。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・広い敷地の中に、利用者が自由に散策できるように花や植木を植え、癒しの庭となっている。また、年に一回、庭園で利用者や地域住民、家族、ボランティアの参加による夏祭りが盛大に開かれている。 ・事業所は開設して一年不足であるが、入浴(夜間入浴)やかかりつけ医の受診、外出支援、食事など利用者の希望に添った支援をするなど、利用者本位のサービスを提供している。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に理念を声を出して確認し合っている。また、会議の際にも、理念をもとに、判断決定している。	理念の内容は、「ここで暮らして良かったと思えるようなケアを目指します」と明文化している。理念は目に触れる場所に掲示し、毎朝、唱和している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りで神輿を見せに来てくれたり、老人会に参加する機会を確保している。また、値域と交流できる夏祭りを開催している。	地域の祭りごとで、神輿を利用者に見せてくれている。また、事業所の夏祭りは、地域の人や家族、老人会、ボランティアなど80人の参加がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会や福祉委員に施設の理解と合わせて認知症の理解を促すような話をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ケア等の報告が中心となっており、参加者からのサービスへの意見があまり出ていない現状にある。	事業所は開設して一年足らずであり、外部評価は初めてである。今後、評価結果をもとに、運営推進会議に活かしたい意向である。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議等に参加し、グループホームとしての意見を伝えたりしている。その他、日常的にも連絡をよくとっている。	毎月、地域のケア会議に出席し、意見を述べている。また、問題点は、市の職員にその都度聞いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や研修において身体拘束をしないケアについて確認している。玄関の施錠は、日中は行っていない。	拘束はなく、広い敷地の中に植木や花を植え、癒しの庭としている。また、職員は拘束について、正しく認識している。外出傾向のある方には、引き止めず一緒に付き添って散歩している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への言葉使いについて、研修を通して理解を深めている。また、5月に研修を予定している。		

事業者名: グループホーム望喜家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に成年後見制度の研修を受けている。また、日常生活自立支援についても、利用者が活用していることもあり、担当者で話し合いを繰り返している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって説明をし、不明な点等を確認をするようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、面会時等においてご家族の意見を頂くようにしている。また、家族会を開催し、意見をサービスに反映するようにしている。	利用者の食べたい献立や行きたいところなどを聞き、実現できる努力をしている。運営に反映している。家族会を通じ、家族の意見を聞いて運営に反映している。日々の様子の写真を多く取り込んだ広報紙を送付している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員主導の委員会制度を設け、全体会議において改善案等を提案し、全員で決定する機会を設けている。	業務改善委員会や安全、給食、レクリエーションなどの委員が主体となって改善に取り組み、職員会議の中で再検討している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者もよく現場に来て、状況の把握につとめている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を充実させている。施設外研修においても、可能な限り代表者を積極的に参加させている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状は、取り組めていないが市の方に提案し、5月ぐらいから実現する予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談や家庭への訪問により、生活状況等を把握するようにしている。また、施設に来所してもらい、他の利用者との関係づくりや不安の解消に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているケアを聞き取り、職員間で理解したうえで、実現していくための方法を検討している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人や家族に必要なサービスを見極め、柔軟な対応を行っている。場合によっては、他の事業所のケアを参考にしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、年輩者であり教えてもらう姿勢を持ち続けることを意識づけしている。声掛けに配慮したり、利用者に感謝を伝える機会を確保している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日ごとの状態を細やかに家族に報告している。家族向けに、利用者の状況を伝えながら、一緒にケアをしていく方向付けを促している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より、通っていた美容院を利用したり、お墓参りを大切にしている利用者の習慣も大切にしている。	市民の馴染みの場所(お食事処)に出掛けたり、美容院やお墓参りなどに連れて行っている。また、数多くのかかりつけ医と協力のもと、馴染みの医師とのつながりを大切にしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間は職員も一緒に食堂で過ごし、会話を持つようにし、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した利用者の家族からの相談に乗ったり、近況を確認する様になっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や生活習慣、趣味を確認し、支援の中で取り組むようにケア会議で話し合っている。また、生活する中での意向の表出を大切に支援に活かす方向で話し合っている。	意向や趣味は、アセスメントシートにきめ細かく記入している。生活歴の収集は、フェイスシートに記入し、情報収集をもとにケアカンファレンスを開いている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント等において、確認できている今までの生活を維持できるように努めている。また、今までの地域住民とのつながりも大切にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムの把握や不安になる時間帯等を把握し、不安の軽減や個別ケアの充実に取り組んでいる。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を月に1回開催し、お一人お一人に適したケアを計画し、職員全体で統一理解のもと支援をするように取り組んでいる。	実践しやすい介護計画書を作成し、事業所独自の「日々のケアレポート表」や「入居者状況チェック表」に記入している。短期目標をもとにモニタリングを行い、見直しのプランにつなげている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を中心としながら、日々の様子を個別介護記録に記載する様になっている。また、ケア会議においても日々の記録を中心に進めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夫婦での利用やペットと一緒に生活を実現している。今までの生活を維持できるように、柔軟な発想でケアや環境整備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議等において、市職員、地域包括支援センター、民生委員、区長等に参加いただき、理解と協力関係を築いている。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者本人が希望するかかりつけの病院への通院を入所後も継続している。通院には、職員が同行し、日常の様子を医師に伝えている。</p>	<p>8ヶ所の病院と関わりを持ち、個々のかかりつけ医の協力のもと、受診の支援をしている。事業所は、看護師が常勤であり、健康状態を把握している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師を配置おり、常に利用者の健康管理や医療面での相談助言、対応を行っている。利用者の体調によっては、病院につなげている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には利用者の様子や情報を医療機関に提供し、週に1回は職員が面会に行っている。また、医療機関や家族と状況などの話をし退院時の連携を良好に行っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化した場合の対応方法について説明と確認を行っており、事業所のできる範囲について言語化し、理解を求めている。</p>	<p>事業所独自に「延命行為に関する同意書」を作成し、利用開始時に事業所のできることを、できないことを説明し、同意してもらっている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の応急手当について、研修会を開催している。また、夜勤時の緊急時対応マニュアルを準備し、対応できるように整えている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回、利用者とともに避難訓練を行っている。また、消防署の協力のもと消化器の訓練を行っている。</p>	<p>風水害、地震や火災を想定した訓練を年に2回行っている。地域の協力体制があり、備蓄も準備されている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士での意見交換にて、言葉使い等に注意を払っている。個人記録等、情報が漏れないように取り扱っている。	コンサルタントを招いて人権の尊重、言葉づかいや記録の在り方、コンプライアンスなどの研修を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を傾聴し、説明や情報提供を行っている。オヤツの飲み物を選択できたり、夜間の入浴をしたりと日々の生活を自分で決める機会を確保している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分によっては、食事の時間を柔軟に対応している。また、日々のプログラムは用意しているが、おひとりお一人の状況に合わせてながらプログラムの変更や個人対応を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師が定期的に施設に来ており、ヘアカットやヘアカラー、お化粧品など、その人らしいおしゃれを楽しめるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中、職員が利用者の中に座り、言葉かけや顔色を観察しながら食事を楽しめるように働きかけている。また、音楽を流したり、食事中に洗い物の音をたてないように工夫をしている。	「食の楽しみ」を大切に、朝食は個別に食べたい時間に合わせている。献立は利用者に聞き、栄養面のバランスに配慮している。また、食事中は皿洗いなどの雑音が入らないようにしている。おやつ飲み物は選択できるようにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1食5品を提供しており、栄養バランスを考えた献立にしている。また、朝食の時間は自由、昼食や夕食は柔軟に対応。おやつ時の飲み物も選択制にし、楽しんでいただくことを大切にしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じ、自力等において口腔ケアを促している。義歯のある利用者は毎日夜間に洗浄液に浸け、清潔を保っている。		

事業者名: グループホーム望喜家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄の頻度やリズムを確認し、声掛けや誘導を行っている。利用者の行動を見て、トイレサインを見逃さないようにしている。	個々の排泄パターンをもとにトイレ誘導を行っている。できるだけおむつは避け、利用者の表情や声掛けにより、排泄の自立を図っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳やバナナを提供したりと、食物繊維の豊富なものを日常的に提供している。毎日、体操や体を動かすことへの参加を促す。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の機会が、十分に確保できていない現状にあるが、なるべく時間を確保し、入浴剤を入れたり会話をしたりと入浴をたのしんでいただく工夫をしている。	入浴の意向を聞き、夜間入浴や入りたい時間帯を聞き、個別に対応をしている。また、重度化に備え特殊浴を設置するなど、入浴の楽しみを大切にしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に自宅から持ってきたものを飾ったり、安心してつるぐことのできる環境づくりに取り組んでいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に服薬の管理を行っているが、服薬の変更時や対応について、その都度説明があり、理解したうえで服薬介助を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お花見、誕生会等年間行事を計画し、喜びのある生活をおくっていただくよう取り組んでいる。食事の準備や片づけを一緒にしていただくことで、役割意識もできている様子がうかがえる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、近所の散歩が主であるが、買い物やドライブなど、なるべく利用者の意向を尊重して対応している。	毎日、事業所の庭園を散歩し、外気に触れている。また、利用者に行きたいところを聞き、佐野植物園や温泉、四季折々の花見、外食などの支援をしている。外出の様子は毎月、発行している広報誌に載せ、家族に配布している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の意思により、買い物の際には預り金より渡し、買い物を楽しめるようにしている。中には、本人で少額をもち、買い物されている利用者もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状と暑中見舞いを出す支援を行い、利用者の希望に応じて、電話をかけた手紙を出せるような支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には観葉植物や水槽の観賞魚を置き、利用者が楽しめるようにしている。また、季節感を感じれるような掲示物等を置き、心地よい空間づくりに努めている。	共用空間には、馴染みの地域の写真や絵画を飾っている。観賞魚の水槽、観葉植物があり、窓辺からは、手入れの行き届いた庭園が楽しめるように配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは、一緒に会話を楽しんだり、レクリエーションをすることも。また、居室にて利用者同士が会話を楽しむこともあり、強制ではなく自由に過ごせるように配慮を行っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で使っていたものや飾られていたものを配置し、落ち着く空間づくりに努めている。	利用者が安心して暮らせるように、できるだけ自宅で使っていた家具や趣味の作品、位牌、家族との思い出の写真を飾り、居心地の良い居室づくりである。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内での転倒を予防するためにセンサマットを使用するなど、なるべく利用者のプライベートを安全に居心地良く過ごしてもらうための工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600048		
法人名	有限会社 あすとぴあ		
事業所名	グループホーム 望喜家 なでしこ		
所在地	臼杵市大字江無田1100番地		
自己評価作成日	平成25年4月10日	評価結果市町村受理日	平成25年7月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年4月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者本位」のできる施設ケアを目指していること。
おやつ時の飲み物が選択できること、食事の時間の柔軟な対応、喜びのある時間の提供など利用者様が「ここで生活して良かった」と、心から喜んでもらえるようなケアを目指していること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(ひまわりと同様)

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に理念を声を出して確認し合っている。また、会議の際にも、理念をもとに、判断決定している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りで神輿を見せに来てくれたり、老人会に参加する機会を確保している。また、値域と交流できる夏祭りを開催している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会や福祉委員に施設の理解と合わせて認知症の理解を促すような話をしている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ケア等の報告が中心となっており、参加者からのサービスへの意見があまり出ていない現状にある。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議等に参加し、グループホームとしての意見を伝えたりしている。その他、日常的にも連絡をよくとっている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や研修において身体拘束をしないケアについて確認している。玄関の施錠は、日中は行っていない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への言葉使いについて、研修を通して理解を深めている。また、5月に研修を予定している。	/	/

事業者名: グループホーム望喜家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に成年後見制度の研修を受けている。また、日常生活自立支援についても、利用者が活用していることもあり、担当者と話し合いを繰り返している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって説明をし、不明な点等を確認をするようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、面会時等においてご家族の意見を頂くようにしている。また、家族会を開催し、意見をサービスに反映するようにしている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員主導の委員会制度を設け、全体会議において改善案等を提案し、全員で決定する機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者もよく現場に来て、状況の把握につとめている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を充実させている。施設外研修においても、可能な限り代表者を積極的に参加させている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状は、取り組めていないが市の方に提案し、5月くらいから実現する予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談や家庭への訪問により、生活状況等を把握するようにしている。また、施設に来所してもらい、他の利用者との関係づくりや不安の解消に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているケアを聞き取り、職員間で理解したうえで、実現していくための方法を検討している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人や家族に必要なサービスを見極め、柔軟な対応を行っている。場合によっては、他の事業所のケアを参考にしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、年輩者であり教えてもらう姿勢を持ち続けることを意識づけしている。声掛けに配慮したり、利用者に感謝を伝える機会を確保している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日ごろの状態を細やかに家族に報告している。家族向けに、利用者の状況を伝えながら、一緒にケアをしていく方向付けを促している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より、通っていた美容院を利用したり、お墓参りを大切にしている利用者の習慣も大切にしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間は職員も一緒に食堂で過ごし、会話を持つようにし、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		

事業者名: グループホーム望喜家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した利用者の家族からの相談に乗ったり、近況を確認する様になっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や生活習慣、趣味を確認し、支援の中で取り組むようにケア会議で話し合っている。また、生活する中での意向の表出を大切に支援に活かす方向で話し合っている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント等において、確認できている今までの生活を維持できるように努めている。また、今までの地域住民とのつながりも大切にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムの把握や不安になる時間帯等を把握し、不安の軽減や個別ケアの充実に取り組んでいる。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を月に1回開催し、お一人お一人に適したケアを計画し、職員全体で統一理解のもと支援をするように取り組んでいる。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を中心としながら、日々の様子を個別介護記録に記載する様になっている。また、ケア会議においても日々の記録を中心に進めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夫婦での利用やペットと一緒に生活を実現している。今までの生活を維持できるように、柔軟な発想でケアや環境整備を行っている。		

事業者名: グループホーム望喜家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等において、市職員、地域包括支援センター、民生委員、区長等に参加いただき、理解と協力関係を築いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人が希望するかかりつけの病院への通院を入所後も継続している。通院には、職員が同行し、日常の様子を医師に伝えている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置おり、常に利用者の健康管理や医療面での相談助言、対応を行っている。利用者の体調によっては、病院につなげている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の様子や情報を医療機関に提供し、週に1回は職員が面会に行っている。また、医療機関や家族と状況などの話をし退院時の連携を良好に行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応方法について説明と確認を行っており、事業所のできる範囲について言語化し、理解を求めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の応急手当について、研修会を開催している。また、夜勤時の緊急時対応マニュアルを準備し、対応できるように整えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、利用者とともに避難訓練を行っている。また、消防署の協力のもと消化器の訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士での意見交換にて、言葉使い等に注意を払っている。個人記録等、情報が漏れないように取り扱っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を傾聴し、説明や情報提供を行っている。オヤツの飲み物を選択できたり、夜間の入浴をしたりと日々の生活を自分で決める機会を確保している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分によっては、食事の時間を柔軟に対応している。また、日々のプログラムは用意しているが、おひとりお一人の状況に合わせてながらプログラムの変更や個人対応を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師が定期的に施設に来ており、ヘアカットやヘアカラー、お化粧品など、その人らしいおしゃれを楽しめるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中、職員が利用者の中に座り、言葉かけや顔色を観察しながら食事を楽しめるように働きかけている。また、音楽を流したり、食事中に洗い物の音をたてないように工夫をしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1食5品を提供しており、栄養バランスを考えた献立にしている。また、朝食の時間は自由、昼食や夕食は柔軟に対応。おやつ時の飲み物も選択制にし、楽しんでいただくことを大切にしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じ、自力等において口腔ケアを促している。義歯のある利用者は毎日夜間に洗浄液に浸け、清潔を保っている。		

事業者名: グループホーム望喜家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄の頻度やリズムを確認し、声掛けや誘導を行っている。利用者の行動を見て、トイレサインを見逃さないようにしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳やバナナを提供したりと、食物繊維の豊富なものを日常的に提供している。毎日、体操や体を動かすことへの参加を促す。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の機会が、十分に確保できていない現状にあるが、なるべく時間を確保し、入浴剤を入れたり会話をしたりと入浴をたのしんでいただく工夫をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に自宅から持ってきたものを飾ったり、安心してつるぐことのできる環境づくりに取り組んでいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に服薬の管理を行っているが、服薬の変更時や対応について、その都度説明があり、理解したうえで服薬介助を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お花見、誕生会等年間行事を計画し、喜びのある生活をおくっていただくよう取り組んでいる。食事の準備や片づけを一緒にしていただくことで、役割意識もできている様子がうかがえる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、近所の散歩が主であるが、買い物やドライブなど、なるべく利用者の意向を尊重して対応している。		

事業者名: グループホーム望喜家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の意思により、買い物の際には預り金より渡し、買い物を楽しめるようにしている。中には、本人で少額をもち、買い物されている利用者もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状と暑中見舞いを出す支援を行い、利用者の希望に応じて、電話をかけたり手紙を出せるような支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には観葉植物や水槽の観賞魚を置き、利用者が楽しめるようにしている。また、季節感を感じれるような掲示物等を置き、心地よい空間づくりに努めている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは、一緒に会話を楽しんだり、レクリエーションをすることもある。また、居室にて利用者同士が会話を楽しむこともあり、強制ではなく自由に過ごせるように配慮を行っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で使っていたものや飾られていたものを配置し、落ち着く空間づくりに努めている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内での転倒を予防するためにセンサマットを使用するなど、なるべく利用者のプライベートを安全に居心地良く過ごしてもらうための工夫をしている。		